国の重要無形民俗文化財 指定50周年記念特別企画

鬼来迎

「鬼来迎」（別名：鬼舞）は、虫生地区に伝わる、800年以上の歴史を持つ古典的仏教劇です。現在まで仏教劇が伝承されているのは全国でも虫生地区のみであり、昭和51（1976）年には国の「重要無形民俗文化財」に指定されました。毎年8月16日、広済寺の特設舞台に鐃鉢の音と「ホッホッホー」の奇声が響き、開演を告げます。

Kiraigo
Kiraigo, also known as Onimai, or the Demon Dance, is a classical Buddhist dramatic performance with a history of over 800 years, preserved and handed down in the Musho district. This district is the only place in Japan where the Buddhist dramatic tradition has been preserved and performed continuously to the present day. In 1976, the performance was designated by the Japanese government as an Important Intangible Folk Cultural Property. Every year on August 16, the sound of nyohachi cymbals and the demons' voices crying "Ho, ho, ho!" echo from the specially built stage at Kosaiji Temple, signaling the beginning of the performance.













1



2



3



4

1 **大序**
場は地獄の閻魔の裁き所。閻魔大王、倶生神、鬼婆、黒鬼・赤鬼が次々と登場し、亡者の生前の罪を判じ、亡者を鬼が責め立てる。

2 **賽の河原**
賽の河原で遊ぶ子どもの亡者たちが地獄の鬼に追われるが、地蔵菩薩が現れ救い出す。

3 **釜入れ**
一人の亡者を鬼婆や黒鬼・赤鬼が責め立てて投げ入れ、釜ゆでにする。

4 **死出の山**
鬼婆や鬼が亡者を責めに責め、死出の山に追いやる。しかし最後に観音菩薩が現れて鬼を負かし、亡者を浄土へ連れ去る。



鬼来迎は、因果応報や勧善懲悪などの仏教の教えを説く仏教劇です。虫生地区の「鬼来迎保存会」によって継承され、毎年8月16日、地獄の釜が開くとされる月遅れの盆に、広済寺の施餓鬼会の後に演じられます。かつては地獄の裁判と亡者への責め苦・救済の四段と、広済寺建立縁起の三段の全七段で構成されていましたが、現在では地獄の様子を描いた四段のみが上演されています。

虫封じ

「鬼婆に抱かれた赤ちゃんは健康に育つ」という言い伝えがある「虫封じ」。1歳未満の赤ちゃんを、鬼婆の奪衣婆が一人ずつ舞台で抱きかかえ、赤ちゃんの顔を覗き込んで「うおーっ」と叫びます。ここで元気に泣くほど健やかに育つとされているため、大人たちは赤ちゃんが泣く様子を笑顔で見守ります。



虫生の共同体が継承

鬼来迎は、演者だけでなく、舞台の設定から衣装の整備まで、全て虫生地区の人たちだけで行います。これも昔からの決まりだそう。地域の結びつきによって守られてきたこの伝統芸能を観ようと、毎年各地から多くの来訪客が集まり、広済寺の境内がにぎわいます。

